

## 地域における幼児う蝕予防対策の展開とその評価

### 20年間の観察研究

ヨコタキミコ 横田紀美子 <sup>*,2*</sup>	シイナユミ 椎名由美 <sup>3*</sup>	ハラダミチコ 原田美知子 <sup>3*</sup>	ワカバヤシヨウコ 若林洋子 <sup>3*</sup>
イナガワミエコ 稲川三枝子 <sup>3*</sup>	オオシマミユキ 大島みゆき <sup>3*</sup>	トリウミサワコ 鳥海佐和子 <sup>3*</sup>	ヒロセクミコ 廣瀬久美子 <sup>3*</sup>
ヤマギシカズマサ 山岸良匡 <sup>2*</sup>	イケハラサトヨ 池原賢代 <sup>4*</sup>	オザキアキコ 尾崎亜希子 <sup>2*</sup>	フジタカオリ 藤田かおり <sup>5*</sup>
ミナトコウジ 湊孝治 <sup>6*</sup>	サタケサチエ 佐竹幸栄 <sup>7*</sup>	フクダヒデキ 福田英輝 <sup>8*</sup>	イソヒロヤス 磯博康 <sup>4*</sup>

**目的** 乳幼児の歯科保健事業として、法定の1歳6か月児，3歳児健診に加えて，自治体独自で実施した1歳児，2歳児，保育園児，幼稚園児の歯科健診やフッ化物歯面塗布等の予防対策の長期的な評価を行う。

**方法** 茨城県真壁郡協和町(現・筑西市協和地区)では，自治体独自の乳幼児う蝕予防対策として，フッ化物歯面塗布を1995年より1歳6か月児，2歳児，3歳児健診時で，1997年より1歳児健診で，2002年より保育園児/幼稚園児対象の健康教室で開始した。また，1990年からカリオスタット検査，1995年からRDテストを上記の健診の中で実施した。これら乳幼児う蝕予防対策の効果を分析するため，1984年から2004年までのう蝕有病割合等の推移を，旧下館保健所管内7市町村ならびに茨城県，全国の成績と比較した。

**結果** 1984年から2004年にかけて，協和町におけるう蝕有病割合の低下は3歳児で59%，1歳6か月児で57%と，それぞれ管内7市町村の中で1番目，2番目に大きかった。これらの低下は，茨城県や全国の成績に比べて大きかった。3歳児において，う蝕有病割合の低下はフッ化物歯面塗布導入の1995年以降に大きくみられた。

**結論** 自治体独自でフッ化物歯面塗布などのう蝕予防や保健指導を3歳児，1歳6か月児以外にも，対象を広げて計画的・長期的に実施したところ，協和町でのう蝕有病割合は管内の他の市町村や県，全国に比べてより大きく低下し，本町におけるう蝕予防対策の有効性が示唆された。

**Key words** : 乳幼児う蝕予防事業・3歳児歯科保健・1歳6か月児歯科保健・フッ化物歯面塗布

\* 前茨城県協和町健康福祉課(現:筑西市協和保健センター)

2\* 筑波大学大学院人間総合研究科社会環境医学専攻社会健康医学

3\* 筑西市協和保健センター

4\* 大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻公衆衛生学

5\* 社団法人茨城県歯科医師会(前茨城県筑西保健所)

6\* 茨城県潮来保健所(前茨城県筑西保健所)

7\* 社団法人茨城県歯科衛生士会

8\* 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学

連絡先: 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2  
大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻公衆衛生学 磯 博康